WEEKLY 一宮

題字　PG　安野譲次



重文　「陵王」面　真清田神社蔵

Rotary 一宮RC

The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日　●例会場 一宮商工会議所　●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 〒491-0858 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話〈0586〉24-1931

持続可能なインパクトを生み出そう

URL:http://rc138.org　E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp

2026年8月27日

第3688回例会

プログラム

イニシエーションスピーチ

島田啓太さん

吉崎直己さん

ロータリーソング　「四つのテスト」

第3687回例会の記録

2026年8月20日（木）

会長挨拶　桑原英寿

今日は「和を以て貴しとなす」という言葉についてお話ししたいと思います。

「わをもってとうとしとなす」

これは、聖徳太子が定めた十七条憲法の第一条に出てくる言葉で、「人と人との和を何より大切にしなさい」という意味があります。

昔、日本では豪族どうしの争いが多くありました。そうした時代に、みんなが協力し合い、話し合いで物事を進めることの大切さを示した言葉だと言われています。現代の私たちの会社・職場でも、この言葉はとても大事だと感じます。意見が違うことや、仕事のやり方が合わないことは　必ずあります。しかし、そのたびに感情的になって対立するのではなく、お互いの立場や考え方を尊重しながら、どうすれば一番よい形になるかを一緒に考えることが「和」につながるのだと思います。

「和」というと、ただ波風を立てないことだと勘違いされがちです。しかし、本来の意味は、何も言わずに我慢することではなく、きちんと意見を出し合った上で、最後にはみんなが納得できる形に調整していくことです。話し合いの中で生まれる協力関係こそが、本当の意味での「和」だといえます。今日一日、会社・職場での会話や対応の中で、「この一言で相手はどう感じるかな」「相手の立場だったらどうだろう」と、少しだけ相手の気持ちを想像してみるといいと思います。その小さな心がけが、職場全体の「和」につながり、仕事のしやすさや成果にもきっと良い影響を与えると思います。私自身も、相手の話を　まずしっかり聞くことを意識して、一日を過ごしたいと思います。

次回の予定

3日　インターアクト海外研修報告

大成中学高等学校

修文学院高等学校

会　長 桑原英寿　会長エレクト 鈴木洋志

副会長 則竹伸也　副幹事 二ノ宮道彦

幹　事 吉山佐人規　会報委員長 豊島晋一

ロータリーの友　8月号　梅谷朋志

横組み12頁から19頁には、台北国際大会の様子が書かれております。開会式には頼総統も出席されました。また台湾では人口当たりのロータリアンの数が世界で一番多く、ロータリー財団への寄付額の世界4位であり、ロータリー活動が熱心です。なお本年度は6月26日よりスペインのバルセロナで開催されます。20頁には米山奨学生事業の基礎知識が書かれております。当クラブでは毎年必ず奨学生を受け入れておりますので、会員歴の短い皆様は是非一度目を通し興味を持って頂ければ幸いです。

縦組み7頁から10頁までの『この人を訪ねて』では大阪北RC森本さんの会社運営について書かれております。大阪市で三和建設というゼネコンを経営され『つくるひとをつくる』を理念に掲げ、社員は家族であると仰っております。新入社員は1年間寮に入り共同生活をするなどして離職率を下げ、10年で社員数も倍増したそうです。

広報雑誌委員長になりロータリーの友を仕方なく読むようになったのですが、意外と興味深い記事もあります。是非皆さんすぐにゴミ箱に捨てずに読んで下さい。ちなみに今月号で興味深かったのは縦組み11頁の『わーるどふうど』インドカレーの話でした。

委員会報告

ニコボックス　森　大介

☆　加藤浩一君　眞野健二君（犬山RC）

本日は恒例の訪問にまいりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

☆　伊藤彰彦君

このたび会社の人事異動により日本エース㈱の代表取締役に就任し、改めて入会申請をしご承認いただきありがとうございます。歴史と伝統のある一宮ロータリークラブの一員として、各活動に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。

☆　則竹伸也君　榊原　譲君　山田一仁君

「地区大会を、一宮クラブの未来につなげる」ホストクラブとしての誇りと、一人ひとりの役割をテーマに卓話をさせて頂きます。本年度は、準備の年、全会員の皆様に引き続きご理解とご協力をお願い致します。

☆　桑原英寿君　吉山佐人規君

本日、改めて仲間として日本エース㈱代表取締役社長伊藤彰彦さんをお迎えした喜びで。お客様として犬山RCより会長加藤浩一様、幹事眞野健二様をお迎えした喜びで。本日は卓話として山田地区大会実行幹事より2027－28年度国際ロータリー第2760地区地区大会開催に向けて我々一宮RCが取り組んで行く内容について報告していただきます。よろしくお願いいたします。日々の会員の皆様のお力添えに感謝申し上げます。

出席報告

ビジター出席数	2名
現在の会員数	108名
本日の出席数	65名
前々回の出席率	100%

＊＊＊＊＊＊ プログラム ＊＊＊＊＊＊

卓話

地区大会実行委員会

テーマ 「地区大会を、一宮クラブの未来につなげる」

～ホストクラブとしての誇りと、一人ひとりの役割～



榊原実行副委員長

本日は、則竹実行委員長が欠席ということで、副委員長がご挨拶させていただきます。今年の地区大会が11月14日に名古屋栄ロータリークラブの主管でエスパシオナゴヤキャッスルで行われます。今年の地区大会は全員登録ですので、皆さん是非出席をお願いいたします。そして我々の本番は来年の11月12日、13日。12日は名古屋観光ホテルで晩餐会、13日がエスパシオナゴヤキャッスルで地区大会という事が決まっています。来年の手帳がないかもしれませんが、ぜひ皆さん頭の中に入れていただき、設営にすごく人数がいるということで、ご協力をお願いいたします。

また、一宮が地区大会の主管をしたのが58年前で、当時は一宮女学園の体育館を会場に大規模な大会が開催されました。本当に大変なことを先輩方がやってみえました。ロータリー文庫に内容が事細かに書いてありますので、ぜひ見ていただきたいです。

当日皆さん素晴らしい大会ができるように、今日を第一歩としてよろしくお願いをしたいと思います。

山田実行幹事

☆「地区大会を成功させること」だけが、私たちの目的ではない

☆クラブそのものが一段成長する機会にしたい

1.【そもそも、なぜ私たちがホストクラブなのか】

地区大会は、誰かが準備して、誰かが運営して、私たちは当日参加するだけの行事ではありません。ホストクラブを務めるということは、**私たちのクラブが地区の皆さんをお迎えする立場になる**ということです。**最後に人の印象をつくるのは、人**です。受付での笑顔。会場での挨拶。困っている方への声掛け。会場内移動のお手伝い。そして、会員同士が助け合っている姿。こうした一つひとつが、私たちのクラブの印象になります。

2.【地区大会は「大会」ではなく「私たちの一宮クラブの挑戦」】

「地区のために私たちが奉仕する大会」というだけではなく、**「私たち自身が挑戦する大会」**と考えたいと思います。なぜなら、普段のクラブ活動では経験できないことが、たくさんあるからです。大きな事業をみんなで企画する。多くの人と連携する。意見の違いを調整する。予定どおりに進まないことに対応する。そして最後には、全員で一つのものを作り上げる。これは、まさにロータリーの活動そのものではないでしょうか。ロータリーには、**「超我の奉仕」**という大切な考え方があります。自分のためだけではなく、誰かのために力を尽くす。しかし同時に、奉仕をすることで自分自身も学び・気づき・成長していく。地区大会のホストを務めることは、まさにその実践の場になるのではないかと思います。

3.【「誰かがやる」から「自分もやる」へ】

地区大会の準備を、**「実行委員会の一部の人がやること」**にしないでいただきたいと思います。**「自分にもできることがある」**という気持ちを、全会員に持っていただきたいと思います。**「自分の担当をきちんとやる」ことと、「クラブ全体を考えて動く」ことは違う**と思っています。ホストクラブとして大切なのは後者です。

4.【一人ひとりが「ホスト」である】

「ホストクラブのホストは、役職者だけではない」ということです。**このクラブの会員一人ひとり全会員が、ホスト**です。ロータリアンとして、**相手を思いやり、相手の立場に立って行動する。**それだけで十分にホストとしての役割を果たせると思います。

5.【完璧な大会より、「心の残る大会」】

私は、地区大会を完璧なものにしなければならないとは思っていません。人が関わる以上、予定どおりにいかないこともあるでしょう。大切なのは、**「何か問題が起きた時に、誰かの個人責任にするのか、それともみんなで解決するのか」**ということです。大会が終わった時に、「大変だったけれど、やってよかった」「みんなで一つのものを作ることができた」「このクラブの仲間っていいな」そう思える大会にしたいと思います。

6.【地区大会を「会員同士の絆」を深める機会に】

大切にしたいのが、**会員同士のつながり**です。ロータリークラブは、単に奉仕活動をするだけの団体ではありません。人と人とのつながりを大切にする組織でもあります。年齢も、職業も、ロータリー歴も違います。その人たちが一つの目標に向かって協力する。私は、そこに大きな意味があると思います。

7.【本当に残したいものは何か】

一つ目は、**「やり切った」**という達成感。二つ目は、**「仲間と一緒にやれば、こんなこともできる」という自信。**そして三つ目は、**「次の世代につながるクラブの力」**です。地区大会で培った経験や仲間との信頼関係は、私たちのクラブに残ります。だからこそ、**地区大会を「一つの行事」で終わらせてはいけない。**私はそう思っています。

8.【最後に、皆さんへのお願い】

「地区大会を自分事として考えていただきたい」ということです。一人ひとり全会員が、「自分たちのクラブがホストなんだ」という気持ちを持っていただきたいと思います。一人ひとりの小さな行動が集まって、**「素晴らしい地区大会だった」**という評価につながるのだと思います。私たちにとって、地区大会ホストクラブを務める機会は、そう何度もあるものではありません。だからこそ、この機会を大切にしたいと思います。地区大会を成功させるのは、特別な誰かではありません。**私たち一人ひとりです。地区大会を成功させることがゴールではありません。**その経験を、これからのクラブ活動につなげていくこと。会員同士の絆を深め、次の世代に「この一宮クラブでロータリーを続けたい」と思ってもらえるクラブをつくっていくこと。そこに、今回ホストクラブを務める本当の意味があるのではないでしょうか。ぜひ皆さんと一緒に、**「この歴史と伝統ある一宮クラブだからこそできる地区大会」**を作り上げていきたいと思います。皆さん、一緒に頑張りましょう。

引き続き、より一層のご理解とご協力をお願い致します。